岩井美保子議員

みくりや市をどうする

共存共栄は十分に可能

問 地元の農産品を直販する「みくりや市」について今後のあり方を問う。

(1)観光交流センターと御来屋漁港水産物直売所とみくりや市との関連はどうするのか。

(2)9月16日に町長はじめ関係機関の皆さんとみくりや市の役員が話し合いをされたようだが、内容はどうだったのか。

(3)みくりや市は運営協議会をたちあげ、会員と役員が一体となって努力を重ね健全経営が出来ていて、自立している。なぜ恵みの里公社の傘下にいれるのか。

(4)恵みの里公社の進捗状況と、平成21年度の収支予算案はどうか。

答（山口町長）

(1)観光交流センターは山陰道や国道9号を利用される観光客や通行者などに休憩場所や簡単な飲食をし、様々な町内の情報を提供する。そこから、観光の要所に放射状に誘導し、町内での滞留時間を延ばし、町内の物産、加工品を大山町ブランドとしてPR販売をねらう。

みくりや市との関係は商品構成に一部重複は生じるが、みくりや市は通過客より根強いファンの皆さんが主な顧客である。御来屋駅の観光施設としての活用策も併せ、それぞれの特徴を活かした品揃えやPRを行うことで、共存共栄は十分に可能で、更に相乗効果もねらえる。

「御来屋漁港水産物直売所」は鮮魚を中心として、干物や加工品、ワカメ、ウニなど土産物の販売、漁師料理の提供などを目的として設置する。相互の役割を補完し合うことができる。

(2)みくりや市の役員さんとの懇談会を持ち、趣旨を説明し、理解をいただき、共に取り組んでいこうとお話しさせていただいた。

(3)恵みの里公社は大山を核にした漁業、農業、商業の連携による地域の活性化が大きな狙いである。傘下に入れるというのではなく、主旨を同じくするものが同じ目的にむかって一緒に取り組んでいくということ。

(4)流通の仕組みに取りかかっている。21年度の収支予算はこれから取り組む。

高田橋　橋梁調査はいつまでか

来年3月に工事完了予定

問 庄内地区高田橋に簡易の信号機がある。この調査はいつまでするか。今後、どうするのか。

答（山口町長）

高田橋は平成19年10月に橋脚の一部に破損が確認され、破損拡大を防ぐため、片側交互通行規制を行っている。利用される皆様には迷惑をおかけしていますが、調査は終了し、結果、橋台内部の鉄筋は健全であるものの、橋台のひび割れ等が確認され、耐久性の面から補修の必要性が認められた。農道保全対策事業として国の補助事業採択となり、9月4日に県が大山広域高田地区農道補修工事（高田橋）を発注し、来年3月15日までの工期で実施される。

工事がはじまった高田橋